



インドネシア

8 ウジュンパンダン上水道整備事業

A
B
C
D

南スラウェシ州都ウジュンパンダン市（現在のマカッサル市）において、浄水場等を新設することにより、同市の給水需要への対応を図り、もって経済成長の促進並びに保健・衛生面の改善に寄与する。

承諾額/実行額 70億3,400万円/68億5,000万円
 借款契約調印 1993年11月
 借款契約条件 金利2.6%、返済30年（うち据置10年）、一般アンタイト
 貸付完了 2002年6月
 実施機関 公共事業省居住環境総局/ウジュンパンダン水道公社



外部評価者 岡田 卓也（株）コーエイ総合研究所
 現地調査 2004年10月

評価結果

本事業では、ほぼ計画通りに浄水場の建設、配水管の拡張・給水栓（メーター）の整備等が行われた。期間は、コンサルタント雇用や浄水場の機器調達の遅れなどにより計画を上回ったが、事業費は計画を下回った。

浄水場の稼働率は2002年、03年ともに100%を超え、03年の各戸給水世帯数は当初計画（12万5,000戸）を上回る12万7,468戸に達しており、本事業は人口113万人を抱えるマカッサル市（さいたま市の人口107万人）への安定した水供給に貢献している。

受益者調査では、約80%が「衛生の改善（下痢性疾患の減少等）」を、約70%が「時間の節約（水くみ労働の軽減等）」を本事業の便益として回答した。また、それまで十分な上水供給が受けられず居住人口を受け入れることが困難であった周縁地区に給水サービスが備えられ、

対象地区の産業・商業活動の活性化に寄与していると推察される。

同市水道公社は、体制面は問題ないが、技術面ではマカッサル市北部地域の配水管の老朽化による漏水等の無収水対策が十分でない。財務面は収益性向上（無収水対策）が必要であるものの、本事業の完成により同公社全体の収益は増加している。

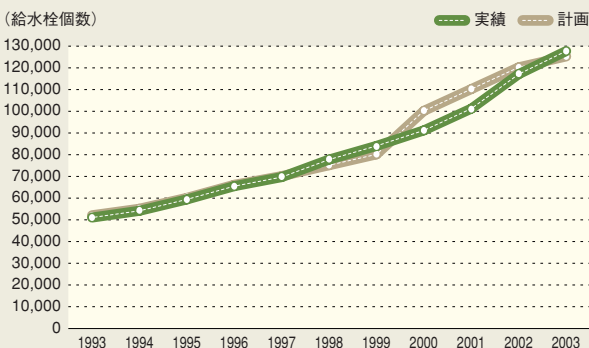
第三者意見

マカッサル市の急増する水道需要に応えた本事業の妥当性は高いが、効果を持続的なものとするためには、水源であるドリビリダムの土砂対策と、貧困層への配慮と採算を考慮した料金体系の構築が必要である。

有識者 Mr. Firdaus Ali（民間企業）

ウィスコンシン・マディソン大学博士（環境工学）。現在、総合環境工学環境コンサルティング会社シニアエンジニア。専門は水供給システム、廃水工学等。

マカッサル市内給水栓設置数の推移



2003年における給水栓設置総数は、事業実施前のおよそ2.5倍に増加した。

本事業対象地域の受益者



本事業が完成し上水供給量が増えたことによって、住民の保健・衛生状態は改善された。